

2 - 2 総合的な緑地の配置計画

4系統別の配置計画を総合的にとらえ、都市計画マスタープランにおける市街化等の都市の発展動向や緑地の充足度等の配置バランスを踏まえ、総合的な配置計画を作成する。

(1) 都市の骨格を形成する緑地の配置

根本山、鳴神山などの山地・丘陵地

- 都市の緑の骨格を形成するとともに、その豊かな自然環境により、環境保全、レクリエーション、防災、景観構成などの多様な機能を有する地域制緑地として保全する。

堤町、宮本町、川内町、吾妻山、菱町、広沢町の斜面緑地、茶臼山

- 市街地を取り囲むこれらの緑地は、市街地にとって緑の背景となるとともに、都市生活の安全性を高め、うるおいのある都市環境を形成するための骨格となる緑地である。既に殆どを森林法による地域森林計画対象民有林（地域制緑地）として保全しており、さらに、そのうちの一部を森林法による保安林、県指定による緑地環境保全地域、市指定による自然緑地保護地区などの地域制緑地として二重の指定により保全している。
- 緑地全体としては現行制度により保全するとともに、保安林、緑地環境保全地域等を指定していない区域の一部については、新たな指定及び配置を行う（(2)-③④）。

渡良瀬川

- 市街地中央を東西に流れ大規模な河川敷を有する渡良瀬川は、多様な機能をもつ水と緑の軸となる緑地であるが、河川区域全体は河川法のもとで地域制緑地として保全する。
- 市街地中心部から東側の河川敷は、緑地が配置されているが、さらに河川環境に配慮した緑の拠点や身近な緑地となる施設緑地を配置する。

桐生川、山田川

- 市北端根本山を源流部として本市を南北に流れる桐生川、鳴神山を源流とする山田川は、多様な機能をもつ水と緑の軸となる緑地であるが、河川区域全体は河川法のもとで地域制緑地として保全する。

(2) 緑の拠点となる緑地の配置

梅田台緑地

- 梅田台緑地は、自然とふれあうレクリエーション拠点となる梅田湖周辺の整備にあわせて、その中心となる施設緑地として配置する。

桐生が岡風致地区、水道山風致地区、富士山風致地区、丸山風致地区、阿左美風致地区

- 市街地及びその周辺に残る樹林地は、樹林・樹木と自然環境、都市環境を保全するため風致地区に指定されており、今後も自然と共生する良好な都市環境を保全・創出していくための緑地として現行制度により保全する。

菱町四丁目・五丁目周辺の樹林地

- 菱町の市街地に囲まれた緑地は本市が用地を取得しており、当面は山林として自然環境を保全し、将来は風致公園の配置を検討する。

観音山周辺の樹林地

- 菱町の観音山周辺の樹林地は風致地区として自然環境や歴史資源などを一体的に保全することについて検討する。

桐生が岡公園、桐生市南公園、桐生市運動公園、新川公園

- レクリエーション、防災などの多様な機能を持ち緑の拠点となる総合公園や運動公園、住宅などが密集した市街地中心部に配置されている公園は、特に防災拠点として災害時に対応できる防災機能を拡充するとともに、利用しやすく魅力ある公園とするために再整備する。

桧杓山

- 桧杓山は、自然環境、歴史的特性を活かした、自然と歴史が一体となった緑地として風致公園を配置する。

桐生自然観察の森

- 桐生自然観察の森は、豊かな自然環境に配慮しつつ、自然とふれあい学ぶ場の拠点となる公共施設緑地として配置されており、今後も周辺の文化財、自然環境を保全しながら、これらと一体となったレクリエーションの場として活用する。

(3) 緑地の均衡ある配置

中心市街地、相生町、広沢町、境野町等

- レクリエーション、防災等の観点から、身近に利用できる都市公園等の施設緑地が不足している地区については、地域の要望を把握しながら効率的に配置する。

(4) 緑化の推進による都市環境の形成

中心市街地

- 住宅や商業施設、公共公益施設等が集積する本市の顔となる中心市街地において、うるおいのある都市環境、美しい都市景観を創出するために緑化を推進する。

工場・事業所及びその周辺

- 工場・事業所周辺における騒音の軽減、景観形成や生活環境の保全のため、工場・事業所及び周辺の緑化を推進する。

緑化された道路、緑道

- うるおいのある道路環境、美しい都市景観を創出するとともに、都市の防災機能を強化するため道路の緑化、緑道の整備を推進する。

(5) ネットワークの形成

新川緑道

- 新川は水辺の再生を含め、うるおいのある緑道として整備し、新川公園と街区公園や公共施設緑地などを結ぶ、市街地中心部の水と緑のネットワークを形成する施設緑地として位置づける。

市内全体

- 自然との共生を図るため環境に配慮するとともに、安全で快適な生活環境を形成するために、骨格や拠点となる緑、身近な緑を結ぶ道路、河川、水路の緑化、散策緑道、サイクリングロードなどの整備を進め、さらにレクリエーション活動を支援するためにハイキングコースとも連続した広範囲の水と緑のネットワークを形成する。

